



【大連支店】

中国の結婚事情と子育てについて

1. はじめに

中国の公園では社交ダンスを踊ったりカラオケに興じる人もいれば、中国ならではの雑技团的な妙技を披露したり、太極拳を練習している人もいます。中でも日本では見かけることのない光景として、公園内で“お見合い”が行われています。20代後半から30代、なかには40、50代の未婚の子供を持つ両親が集い、子供のプロフィールを1枚の紙に記し、子供に代わり積極的にPRしています。プロフィールには年齢や性格、連絡先だけを記したのもあれば、本人の顔写真や給与、身長、体重まで記したものもあります。お見合いに本人が来ていることはなく、そこは高齢者の集いの場となっています。子供よりも両親が積極的に結婚相手を探すあまりに、子供の懐具合もオープンにする面で中国人らしさを感じる一方、文化の違いでは収まらない、社会問題が横たわっているように感じました。そこで今回はこのお見合いに垣間見える中国の抱える結婚事情や子供教育、人口問題についてご紹介します。



公園に集まる親



プロフィール写真

2. 一人っ子政策

中国は人口抑制策の一環として各家庭に原則一人しか子供をもうけてはいけないという「一人っ子政策」を1970年代より行ってきました。この「一人っ子政策」のもと

で育ってきた、「80後（バーリンホウ 1980年代生まれの世代）」、「90後（ジウリンホウ 1990年代生まれの世代）」と呼ばれる世代は中国の若者の代名詞です。特徴的な消費性向や購買力を有することからこの世代をターゲットとしたマーケティングは中国市場攻略の必須条件とされています。そして、上述のお見合いの大半はこういった80後、90後世代が中心です。

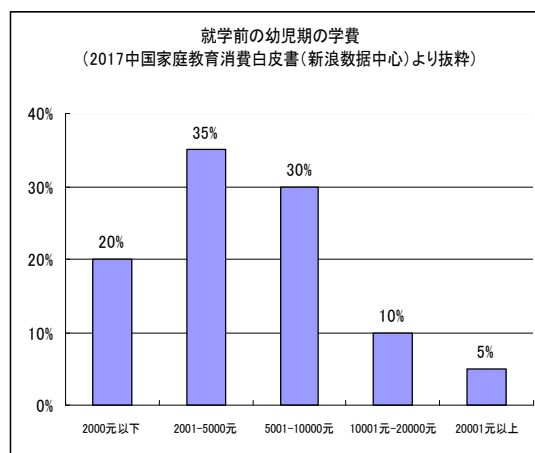
両親や祖父母からの愛情を一身に受け育った彼らは、社会においては「小皇帝」と揶揄されており、一般的には“ワガママ”な性格が多いとされています。一方で、現代の高等教育を受けた最初の世代であることから、彼らは中国の高度成長を支える礎ともいえる世代でもあります。

彼らが結婚に求めるのは、この世代ならではの個性や個人主体の生活です。自分の価値観や生き方を尊重するため、結婚生活に求める優先順位は「自分らしく生きたい」が一番で、より自立した生活を求める傾向にあるようです。マンションを住宅ローンで購入した20代女性の話では「結婚は焦ってするべきではなく、『何歳までに結婚して、何歳までに子供を産む』といった方程式で計算すべきものではないし、万人に当てはまることでもない。今、独身でいることは、私にとって最適の状態と言えるかもしれない」とのこと。国家统计局と民政部の統計データによると、中国全土の婚姻率が2013年から5年連続で低下しています。

3. お金のかかる子供教育

晴れて結婚し寵愛する子供を授かっても、中国ではそこから過酷な受験戦争がスタートします。中国の子供教育は幼少期から始まり、英語や算数等を習います。教育レベルは高く4歳にして既に九九を暗記している子もいるほどです。小学校に進学後は大半が放課後は塾に行ったり、ピアノや水泳等の習い事をし、最近ではパソコンを使った教育も人気が高いようです。

教育にかかる費用は親の所得により様々ですが、所得の増加に伴い、消費に占める教育関連の支出も増加傾向にあります。2017年の住民（都市部と農村部を含む）1人当たりの教育関連支出は前年比8.9%増の2,086元/月（約33,376円、1元＝約16円）となっています。学校に払う費用（公立学校）は無料ですがこのような課外活動に1か月あたり2,000元～5,000元（32,000円～80,000円 1元＝16円）を費やしています。中には6,000元（96,000円）以上かけている家庭もあるようです。このように幼少期から教育にお金をかける背景には中国は人口が多い分、競争も日本の比ではなく、将来安定した職業に就くために我が子に少しでも高等教育を施しておきたい親の愛情があるのです。



4. 進まない二人っ子政策

少子化の進展に伴う労働力不足、国内の投資・消費の縮小などが問題視されてきたことなどから、中国では2016年1月に「一人っ子政策」が撤廃され、すべての夫婦に二人目の子供を持つことが認められました。1970年代から続いてきた人口抑制策はここに転機を迎えたこととなります。

しかし、経済的な理由などから、二人目の子どもを持つことに消極的なカップルは少なくありません。既婚男女を対象に実施した調査結果(2015年11月発表)によると、二人目の子どもを持つことについて「考える」と答えた人は約半数の46.2%でした。そして、51.6%が「生活の質は落としたいくない」、40.4%が「今の生活のリズムを崩したいくない」、32.1%が「職場での出世の可能性を犠牲にしたいくない」として、二人の子どもを持つことに慎重な姿勢をみせています。事実、2018年の出生率は、70年前の中華人民共和国建国以来の低水準となっており、1000人当たり10.94人と、2017年の12.43人から低下し、1949年以来の低水準となっています。2018年の出生数は200万人減の1523万人でした。

また、上述のようにワガママに育ってきた小皇帝は大人になっても子供の一面を多く持ち、「子供が子供を育てているのに二人目は無理」と言い切る高齢者もいます。このような事情から中国では二人目の子供を授かることにためらう方々が多いのが現実です。

5. 変り行く中国労働市場

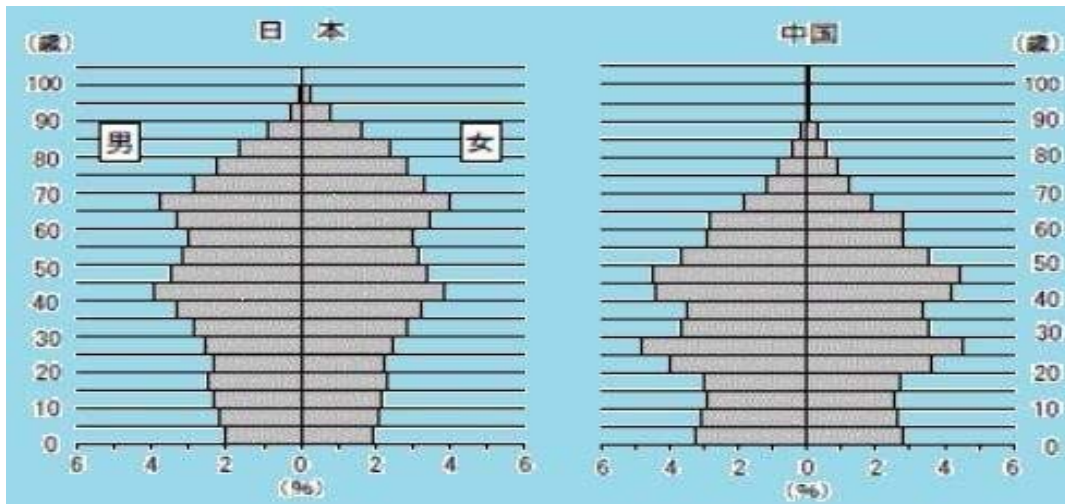
国家统计局のデータによると、2018年における中国の就業人口は7億7586万人と前年比54万人の減少でした。中国はかつて無尽蔵な労働力と広大な土地を武器に世界中から投資を集め、世界の工場の地位を築き上げました。しかし、そんな中国の経済成長重視の政策は豊かさと引き換えに人口減少をもたらすことになりました。また、人口が多い故に発生する過当競争社会は幼少期からスタートし、現代中国人達は小さい頃から世の中の現実が突き付けられ、アイデンティティの形成に必要な思春期は恋愛をする時間もなく、学習に追われています。こうした社会背景が結婚に対しても前向きになれない若者の思想を形作ってしまっているのかもしれない。

6. 終わりに

日本は既に世界一の高齢化社会に突入しています。労働力不足に対応するため、政府は外国人労働者の就業機会を増やすべく様々な政策を講じています。日本で起きている労働人口の減少や晩婚化、少子化等、様々な社会問題はお隣の国・中国にもじわじわと押し寄せています。日本と中国はこれからも多くの社会問題を共有する機会が増えそうです。

私ども大連支店では、当地のネットワークを活かして中国ビジネスに関わる様々な情報を発信してまいります。是非お気軽にご相談ください。

人口ピラミッド（年齢階級別、日本、中国の比較 2015年）



出典：総務省統計局ホームページ

(山口銀行大連支店 田村 卓也)

【参考文献】

独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査研究結果

日本貿易振興協会 HP

インターネット教育に沸く中国教育市場…日本貿易振興協会（2018年12月5日）

2017年中国家庭教育消費白書…新浪教育

中国青年報（2015年11月）

中国国家統計局 統計ポータルサイト

みずほ銀行 2019年版中国ビジネス・データ